

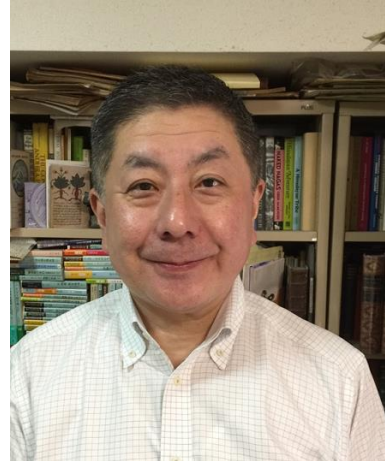
## 東京外語会主催 文化講演会

### 『変貌を遂げるインドを語る：歴史・地域研究の観点から』

講師：藤井毅 東京外国語大学大学院総合国際学  
研究院教授<南アジア地域研究、インド近現代  
史>

日時：9月2日（土）午後2時－4時  
（続いて懇親会）

場所：東京外国語大学本郷サテライト4階（講演）  
および7階（懇親会）



#### プロフィール：

藤井 毅（ふじい たけし）東京外国語大学・大学院・総合国際学研究院・教授（ヒンディー語、南アジア近現代史、南アジア地域研究専攻）。

東京外国語大学・外国語学部 インド・パーキスターン語学科（ヒンディー語）卒業。  
同大学院修士課程。インド、デリー大学大学院修士課程修了。

1987年4月に本学ヒンディー語学科に助手として着任。2001年4月より現職。単著書に、『歴史のなかのカースト』（岩波書店、2003,07年）、『インド社会とカースト』（山川出版社、2007,10,13,16年）。共著書に『回想の日印関係：三角佐一郎談話録』（東京外国語大学「史資料ハブ地域文化研究拠点」、2008年）、*Unfinished agenda*, ed. by N. Nakazato (New Delhi: Manohar, 2001)、『多言語主義再考』砂野幸稔編（三元社、2012年）など。

#### 講師よりのメッセージ：

1991年の経済開放以降、インドは大きな変貌を遂げ、その速度は近年とみに速まりつつある。日本のみならず、世界各国との経済関係が拡大し、政治軍事的には、日米との関係が強まりを見せている。わたしは、1970年代より研究というかたちでインドと関わり始めたが、昨今の動向が日本でどのように理解されているのかを見るにつけ、あたかも1991年以前の歴史は無かったかのように扱われているのに気づかされる。経済開放以降、インドで何が変わり、変わらなかったものは何なのであろうか。現下、生起している問題の淵源はどこにあり、将来、それはどのようになってゆくのであろうか。歴史学・地域研究の立場から、お話したいと思っている。話題として取り上げたいのは、「インドの多様性と非寛容」、「表現の自由」、「インド理解にとって“カースト”は万能の鍵か」といったテーマである。